

「平和と宗教」

2016年09月26日

港南台地区シルバークラブ連合会は「次の世代に語りつぐ戦争の記憶」の会を3回開き、3人ずつ9人の方々が登場して戦争体験と平和への思いを語った。宗教者として私にも「平和と宗教」というタイトルで話すように求められた。70名くらいの集まりで、熱心な質疑応答もあり、盛会であった。その後、「戦後70年記念講演会記録」の冊子を出すということで、短い原稿を依頼された。骨子だけになったが、下記の原稿を提出した。

皆様は「次世代に語りつぐ戦争の記憶」の会で、戦争の実態を語り継ぎ、平和を実現しようとしていることに心から敬意を表します。

私は日本基督教団（以下一教団）横浜港南台教会の牧師をしていましたが、一昨年、引退しました秋吉隆雄と申します。私は1941年、真珠湾攻撃があった年に、旧満州大連で生まれました。ですから、自分のことを「中国侵略者の末裔」と言っています。3歳くらいの時、玄関を出たところ、ごみ箱を漁っていた中国人女性が、私をめがけて石を投げつけました。頭のとっぺんに当たり、大量の血が流れ出ました。その傷で、頭に一銭禿ができました。以来、そのとっぺんからの禿は広がっています。大人になって理解したことです、彼女は日本人が中国で我が物顔に生活していることに深い憤りを持っていたのです。大人には怒りを表わせないので、子どもの私をターゲットにしたのです。自分を中国侵略者の末裔だと納得しています。

高校生の頃、青春の嵐に襲われ、人生に悩みました。聖書と出会い、神とキリストを信じて、生きていく勇気を与えられ、牧師になる決心をしました。神学校を卒業してから47年間、教団の牧師を務めました。教団は1941年、政府は戦争を遂行するために、プロテスタント諸教派の管理、統率を円滑にしようと合同を要請し、諸教派は要請を受けて誕生したのです。当時教団は、キリスト教信仰よりも皇国史観を優先させるような信徒規約を作っています。ですから、大東亜戦争に全面的に協力する体制でした。キリスト教は神のみを神とする信仰ですが、神社参拝、宮城遥拝を国民儀礼として受け入れたのです。天皇を現人神とすることに反対し、迫害・拷問を受け、獄死した牧師もいます。しかし、大勢は戦時体制に飲み込まれていきました。朝鮮では、唯一の神を信じるクリスチャンは神社参拝を拒否し、迫害を受け、多くの殉教者が出ました。教団は彼らの苦悩を無視し、国民儀礼として奨励しました。アジアの諸教会に対しても、聖戦であるから、戦争に協力するように呼びかけました。

1967年に教団は「戦争責任告白」を出し、教会の過ちを認め、被害を与えたことの許しを乞い、平和の実現に向かって再出発することを公にしました。私はこの「戦争責任告白」

に立って、牧師をしてきました。罪を認め、悔い改めることによって、他者と和解し、真に人になるというのがキリスト教信仰の核心です。

ドイツでは1985年に、ヴァイツゼッカー大統領が「荒れ野の40年」という歴史的な演説をしました。大統領はドイツが犯した過ちを列挙し、許しを求めました。そして「過去に目を閉ざす者は結局のところ、現在に対しても目を閉じるのであります」と語っています。加害責任を告白し、その責任を負う時、和解が生まれ、共に生きる平和が実現していきます。ドイツは、この罪責を負う政治を行っています。

日本では「南京虐殺」「従軍慰安婦」はなかった。それを認めることは自虐的であると、アジア・太平洋戦争を正当化しようとする主張があります。しかし、それは事実を黙殺し、歴史を歪曲することです。そこでは、和解も平和も生まれてきません。罪や過ちを認めることは自虐的なことではなく、人間として誠実なことで、高い倫理性の中で精神的な成長を約束します。

日本国憲法が制定された時、310万人の戦死者、アジア諸国においては2,000万人以上の犠牲者を出した悲惨な戦争を、二度としないと決めた憲法を国民は心から喜びました。同時に、憲法は被害を与えたアジア諸国への罪責を表明するものでした。

「東京新聞」の朝刊に連載されている「平和の俳句」に、16歳の高校生が「ごめんねの言葉に平和つまってる」と詠んでいます。戦後、日本は戦争責任を曖昧にし、加害者としての認識が希薄であったために、今日のような無責任な言動が大手を振るっているのではないのでしょうか。事実を直視し、過ちを認め、謝罪するところに平和が来ます。私は、このことを何より訴えたいと思っています。

最後に、キリスト教信仰について申しあげたいと思います。キリスト教信仰は唯一全能の神を信じるという信仰です。神を認めた時、地上の全ては、それなりの意味と力を持った相対的な存在であると認識します。互いが相対的な存在ですから、隣人として受け入れ合うことができます。価値観を異にする者であても、共に平和であろうとするのです。

神の絶対正義が自分に転嫁される時、正義を振りかざし、他者を否定する「原理主義」に陥ります。これは神信仰ではありません。イエス・キリストは人間の尊厳を守り、権力の横暴に抵抗しました。ですから、権力者に殺されたのです。権力は人を支配し、反対する者を排除し、自らの拡大を目指します。

安倍政権は「特定秘密保護法」「安保関連法」を強引に作りあげ、戦争のできる国にしようとしています。これに反対し、九条を守ることが平和の実現につながると信じています。